

ネイティブ牛カルボキシペプチダーゼA

Cat. No. NATE-0150

Lot. No. (See product label)

はじめに

明 牛脾臓腺から単離されたカルボキシペプチダーゼは、1モルのタンパク質あたり1g原子の亜鉛を含むメタロ酵素です。これは、ペプチドおよびタンパク質におけるカルボキシル末端ペプチド結合の加水分解を触媒します。主にフェニルアラニン、トリプトファン、ロイシンなどの芳香族および疎水性側鎖に特異的です。この酵素はエステラーゼ活性も示します。β-フェニルプロピオン酸エステルおよびインドール酢酸によって阻害されます。

用途 ウシ脾臓由来のカルボキシペプチダーゼAは、大腸菌における可溶性および活性化可能なウシ前カルボキシペプチダーゼAの発現を調べる研究に使用されました。ウシ脾臓由来のカルボキシペプチダーゼAは、ダチョウカルボキシペプチダーゼの前体の分離と部分的な特性評価を調べる研究にも使用されました。Creative Enzymesの酵素は、*Metarhizium anisopliae*カルボキシペプチダーゼA (MeCPA) の特異性を研究するための比較として使用されました。MeCPAは、組換えタンパク質のC末端からポリヒスチジンタグを除去することを容易にするために遺伝子工学的に改変されました。また、*in vitro*でα-チューブリンの脱チロシン化に使用され、高い親和性をエチル-N-フェニルカルバメート (EPC) セファロースに誘導するためにも使用されました。

別名 EC 3.4.17.1; CPA1; CPA; カルボキシペプチダーゼ A1; 脾臓前カルボキシペプチダーゼ A; 11075-17-5; カルボキシポリペプチダーゼ; ペプチジル-L-アミノ酸ヒドロラーゼ; カルボキシペプチダーゼ A; カルボキシポリペプチダーゼ; 脾臓カルボキシペプチダーゼ A; 組織カルボキシペプチダーゼ A

製品情報

種	ウシの
由来	牛脾臓
形態	水性懸濁液。
EC番号	EC 3.4.17.1
CAS登録番号	11075-17-5
分子量	mol wt ~35 kDa
活性	> 50 ユニット /mg タンパク質
代謝経路	脾臓分泌、特定生物体のバイオシステム; タンパク質の消化と吸収、特定生物体のバイオシステム; タンパク質の消化と吸収、保存されたバイオシステム
機能	メタロカルボキシペプチダーゼ活性; 亜鉛イオン結合
単位定義	1ユニットは、25°CでpH 7.5の条件下で1.0μモルのヒッピーリル-L-フェニルアラニンを1分あたり加水分解します。

保管・発送情報

保存方法 2-8°C